

どのような教員配置を行っているか？

【保健医療学部】

1. 保健医療学部の教育課程の編成は、学部共通科目、専門基礎科目及び専門科目の3分野の科目区分により構成される。口腔保健学科では、これに選択必修科目を加えた4分野の科目区分で構成される。
2. 概ね1年次、2年次は、学部共通科目と専門基礎科目を履修させることにより、論理的思考力を育て、人間について深い理解を促し、生命倫理、人権とその尊厳について幅広く理解し、国際化及び情報化社会に対応できる一般社会人としての深い教養を身に付けるとともに、人体の構造と機能及び心身の発達を系統立てて理解させることを基本としているが、学生のキャリア意識、モチベーションを高めるために一部専門科目を履修させることとしている。

また、2年次以降においては、主に専門基礎科目と専門科目を履修させる。

3年次においては理論と実践を、4年次においては2年次または3年次から始まる臨床実習で得た知識、技術を基盤として、実習施設等で評価と治療を実践する総合臨床実習を行い、卒業研究において基礎教育、専門教育の総まとめとして学生個々に個別のテーマについて情報収集し、研究計画を立て、研究及び解析を行い、学生の研究能力、解析能力等の育成を図ることとしている。

3. 保健医療学部の主に1年次、2年次の前期で履修する学部共通科目のうち、論理的思考と人間についての深い理解を涵養させる科目、いわゆる、一般教育科目の人文、社会、自然分野については専任教員と兼任教員を配置することを基本とする。一部兼任教員を充てている。

外国語科目の英語については専任教員を配置するが、一部兼任教員を充てている。

スポーツ・健康科学科目は主として専任教員を配置している。

総合教養科目の基礎ゼミナールは大学における導入科目として専任教員を配置する。それ以外の科目については一部兼任教員を充てる。

4. 専門基礎科目については、専任教員と兼任教員を中心として、一部兼任教員を充てている。
5. 専門科目については、専任教員と兼任教員を中心として、一部兼任教員を充てている。
6. 医学系基礎科目担当教員は、学生への教員の責任体制を明確にするため、それぞれの専門分野に強く関連する学科に所属させている。
7. 臨床実習施設は兵庫県、大阪府、を中心に配置しているが、本学科の専任教員、実習施設の実習指導者やその他の職員等、多くの教職員の連携協力によって準備されたことから、それ以外の地域にも広がっている。そのため、これらの職員との緊密な連絡調整、充実した臨床実習計画、巡回指導等を専任教員が担当している。
8. 基礎医学系分野及び専門教育分野の実習を補助する助手を配置し、授業の充実・効率化を図るようにしている。

【和歌山保健医療学部】

1. 和歌山保健医療学部の教育課程の編成は学部共通科目、専門基礎科目及び専門科目の3分野の科目区分により構成される。
2. 概ね1年次、2年次は、学部共通科目と専門基礎科目を履修させることにより、論理的思考力を育て、人間について深い理解を促し、生命倫理、人権とその尊厳について幅広く理解し、国際化及び情報化社会に対応できる一般社会人としての深い教養を身に付けるとともに、人体の構造と機能及び心身の発達を系統立てて理解させることを基本としているが、学生のキャリア意識、モチベーションを

高めるために一部専門科目を履修させることとしている。

また、2年次以降においては、主に専門基礎科目と専門科目を履修させる。

3年次においては理論と実践を、4年次においては2年次、3年次から始まる臨床実習で得た知識、技術を基盤として、実習施設等で評価と治療を実践する総合臨床実習を行い、卒業研究において基礎教育、専門教育の総まとめとして学生個々に個別のテーマについて情報収集し、研究計画を立て、研究及び解析を行い、学生の研究能力、解析能力等の育成を図ることとしている。

3. 和歌山保健医療学部の主に1年次、2年次の前期で履修する学部共通科目のうち、論理的思考と人間についての深い理解を涵養させる科目、いわゆる、一般教育科目の人文、社会、自然分野については専任教員と兼任教員を配置することを基本とする。一部兼任教員を充てている。

スポーツ・健康科学科目は主として専任教員を配置している。

総合教養科目の医療専門職に必須である「コミュニケーション演習」、高大接続の役割を果たす「基礎ゼミナール」についても専任教員を配置している。

4. 専門基礎科目については、専任教員と兼任教員を中心として、一部兼任教員を充てている。
5. 専門科目については、原則としてすべて専任教員が担当する。
6. 医学系基礎科目担当教員は、学生への教員の責任体制を明確にするため、それぞれの専門分野に強く関連する専攻に所属させている。
7. 臨床実習施設は和歌山県を中心に確保しており、本学科の専任教員、実習施設の療法士や看護師その他の職員等、多くの教職員の連携協力によって準備されている。

そのため、これらの職員との緊密な連絡調整、充実した臨床実習計画、巡回指導等を専任教員が担当している。

【観光学部】

1. 観光学部の教育課程の編成は、基礎教育科目、専門教育科目及び卒業研究の3分野の科目区分により構成される。
2. 基礎教育科目は、「導入教育科目群」、「外国語科目群」、「キャリア教育科目群」、「教養教育科目群」の4つの科目群からなり、それぞれ1年次、2年次を中心に配置している。基礎教育科目では、学問形成に不可欠な基礎的・導入的な知識および能力などを修得し、専門分野の学修に備える。また、観光以外の分野についての知識やものの考え方を学ぶことで、多角的な視野をもつことも目的とする。「導入教育科目群」では大学で学ぶ上で必要な基礎的な知識、スキル、および主体的に学ぶ態度を身につける。「外国語科目群」では観光専門職にとって必要不可欠である実践的な英語活用能力を身につける。「キャリア教育科目群」では学生の社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度を身につける。「教養教育科目群」では現代人としての豊かな教養を学修し、あらゆる背景を持った多様な人々に対する高いコミュニケーション能力を身につける。

専門教育科目は、主に2年次、3年次に配置されており、「基盤科目群」「基幹科目群」「発展科目群」と段階的に配置され、更に「発展科目群」は専門分野により4つの領域に分けられる。「基盤科目群」では、社会学の基礎概念を理解すると共に、観光学の共通基盤を体系的に身につける。また、データに基づく科学的思考力を身につける。「基幹科目群」では、観光分野の専門職として必要となる能力の育成、及び医療・介護に関する基礎知識と医療や介護に関する資格を有しない者が行える基礎的な技術を身につける。「発展科目群」では、観光産業が対象とする分野は幅広いため、卒業後に即戦力として機能するために分野を絞り、纏まりのある学修をおこなうため、4つの領域（ヘルスツ

ーリズム領域、地域経営（観光）領域、ホテル・ブライダル領域、エアライン領域）についてより専門的・実践的な知識と技術を身につける。

卒業研究は、4年次通年で1科目4単位を必修科目とする。学生は自由にテーマを選び、観光関連科目を担当する専任教員が分担して担当し指導に当たり、4年間の学びを総括する。

3. 観光学部の主に1年次及び2年次で学修する基礎教育科目については、基本的に必修科目は専任教員を充てることとしており、一部兼任教員を充てている。特に宮古島キャンパスで開講する地域に関連する授業科目については、地域で活動している方を兼任教員として配置している。
4. 専門教育科目は、主要な授業科目は原則として専任教員が担当する。また、保健医療分野については、本学の既存学部において医療技術者養成の長い経験を有する兼担教員が担当することで教育効果の向上を図る。このほか必要に応じて兼任教員を配置している。
5. 卒業研究は、専任教員全員が担当する。
6. 各種インターンシップは、専任教員が担当するが、インターンシップ先の指導者や多くの職員との連携・協力によって成立する科目であることから、緊密な連携調整、巡回指導等を行うこととしている。

【専任教員の年齢構成について】

宝塚医療大学の今年度の専任教員は、下表のとおりであり、その年齢構成については、均衡がとれていると考える。また、本学教員の定年は65歳であるが、大学設置時には特例として75歳までとしている。

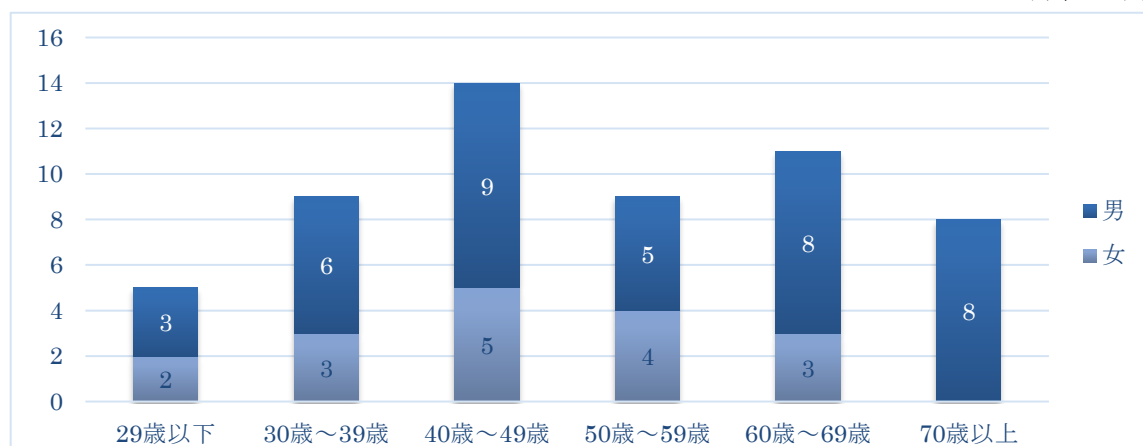
◆ 宝塚医療大学 保健医療学部

(令和8年5月1日現在、単位：名)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	3	6	9	5	8	8	39
女	2	3	5	4	3	0	17
合 計	5	9	14	9	11	8	56

年齢別保健医療学部専任教員数

(単位：名)



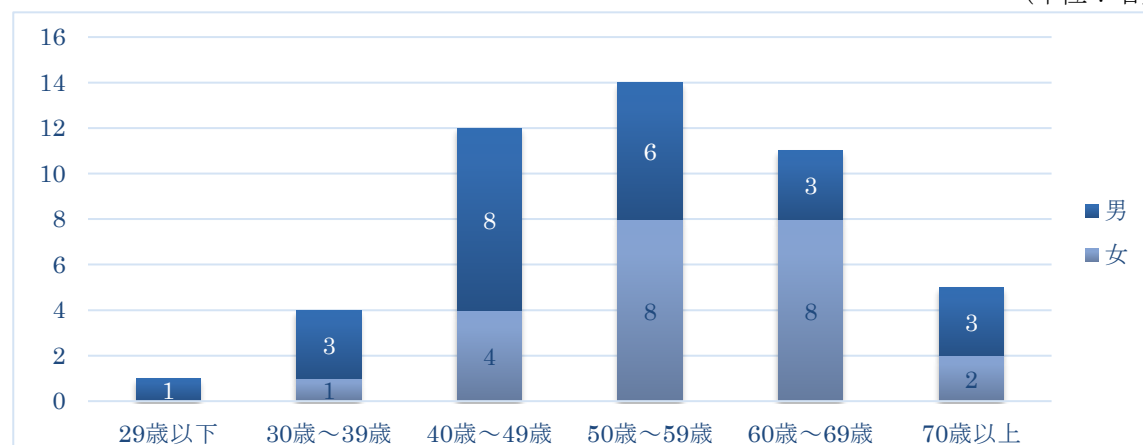
◆ 宝塚医療大学 和歌山保健医療学部

(令和8年5月1日現在、単位：名)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	1	3	8	6	3	3	24
女	0	1	4	8	8	2	23
合 計	0	4	12	14	11	5	47

年齢別和歌山保健医療学部専任教員数

(単位：名)



◆ 宝塚医療大学 観光学部

(令和8年5月1日現在、単位：名)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	0	0	2	3	3	1	9
女	0	1	1	1	1	0	4
合 計	0	1	3	4	4	1	13

年齢別観光学部専任教員数

(単位：名)

